



コーリング サーチ スペースの設定

コーリング サーチ スペースは、通常はデバイスに割り当てられているルートパーティションの順序リストで構成されます。コーリング サーチ スペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索するパーティションが決まります。コーリング サーチ スペースとパーティションの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「パーティションおよびコーリング サーチ スペース」を参照してください。

コーリング サーチ スペースを検索、追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [コーリング サーチ スペースの検索 \(P.46-2\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの設定 \(P.46-3\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの設定値 \(P.46-4\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの削除 \(P.46-6\)](#)

コーリング サーチ スペースの検索

ネットワーク内にはいくつかのコーリング サーチ スペースが存在することがあるので、Cisco Unified Communications Manager では、固有の条件を指定して、特定のコーリング サーチ スペースを見つけることができます。コーリング サーチ スペースを特定する手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、コーリング サーチ スペースの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えない限り、コーリング サーチ スペースの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [コントロールのクラス] > [コーリングサーチスペース] の順に選択します。

[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、**ステップ 3**に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

P.46-7 の「関連項目」を参照してください。

コーリング サーチ スペースの設定

コーリング サーチ スペースをコピー、追加、および更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 メニューバーで [コールルーティング] > [コントロールのクラス] > [コーリングサーチスペース] の順に選択します。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のコーリング サーチ スペースをコピーするには、対象となるコーリング サーチ スペースを見つけます (P.46-2 の「コーリング サーチ スペースの検索」を参照)。コピーするコーリング サーチ スペースの横にある [コピー] アイコンをクリックします。ウィンドウに、コピーしたコーリング サーチ スペースが表示されます。[名前 (Name)] フィールドで名前を変更し、**ステップ 3** に進みます。
- コーリング サーチ スペースを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 既存のコーリング サーチ スペースを更新するには、対象となるコーリング サーチ スペースを見つけて (P.46-2 の「コーリング サーチ スペースの検索」を参照)、**ステップ 3** に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 46-1 を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

追加情報

P.46-7 の「関連項目」を参照してください。

コーリング サーチ スペースの設定値

表 46-1 では、コーリング サーチ スペースの設定値について説明します。

表 46-1 コーリング サーチ スペースの設定値



フィールド	説明
[コーリングサーチスペース情報]	
[名前]	<p>名前を [名前 (Name)] フィールドに入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各コーリング サーチ スペース名が、システムに固有の名前であることを確認してください。</p> <p> (注) コーリング サーチ スペースには、内容を表す簡潔な名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を的確に表し、コーリング サーチ スペースをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「CiscoDallasMetroCS」は、Dallas の Cisco オフィスからの、LATA (Local Access and Transport Area) 間の無料コール用のコーリング サーチ スペースとして特定できます。</p>
[説明 (Description)]	<p>[説明 (Description)] フィールドに説明を入力します。この説明には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。</p>
[コーリングサーチスペースのルートパーティション]	
[使用可能なパーティション (Available Partitions)]	<p>[使用可能なパーティション] リストボックスでパーティションを選択し、そのパーティションを [選択されたパーティション] リストボックスに追加します。これには、この 2 つのリストボックス間にある矢印ボタンをクリックします。</p> <p>ある範囲のパーティションを一度に追加するには、その範囲内の最初のパーティションをクリックし、Shift キーを押した状態でその範囲内の最後のパーティションをクリックします。2 つのリストボックス間にある矢印ボタンをクリックして、その範囲のパーティションを追加します。</p> <p>連続していない複数のパーティションを追加するには、Control (Ctrl) キーを押した状態で複数のパーティションをクリックしていきます。2 つのリストボックス間にある矢印ボタンをクリックして、選択したパーティションを追加します。</p> <p> (注) パーティション名の長さによって、コーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数が制限されます。表 46-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。</p>
[選択されたパーティション]	<p>パーティションの優先順位を変更するには、[選択されたパーティション] リストボックス内のパーティション名を選択します。そのリストボックスの右側にある矢印をクリックして、リスト内でそのパーティションを上下に移動させてください。</p>

表 46-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。この最大数の計算方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「パーティション名の制限」を参照してください。

表 46-2 コーリング サーチ スペースのパーティション制限

パーティション名の長さ	パーティションの最大数
2 文字	170
3 文字	128
4 文字	102
5 文字	86
...	...
10 文字	46
15 文字	32

追加情報

P.46-7 の「関連項目」を参照してください。

コーリング サーチ スペースの削除

コーリング サーチ スペースを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス、回線 (DN)、トランスレーション パターンなどの項目が使用しているコーリング サーチ スペースは、削除できません。コーリング サーチ スペースを使用しているデバイス、回線、トランスレーション パターンなどの項目を検索するには、[コーリングサーチスペースの設定 (Calling Search Space Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスにある [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、[P.A-4](#) の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」を参照してください。使用中のコーリング サーチ スペースを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。現在使用中のコーリング サーチ スペースを削除する前に、次の作業の一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するコーリング サーチ スペースを使用しているデバイス、回線、またはトランスレーション パターンすべてに、別のコーリング サーチ スペースを割り当てる。[P.57-1](#) の「[電話番号の設定の概要](#)」および [P.53-4](#) の「[トランスレーション パターンの設定](#)」を参照してください。
- 削除するコーリング サーチ スペースを使用しているデバイス、回線、またはトランスレーション パターンを削除する。[P.57-5](#) の「[電話機からの電話番号の削除](#)」および [P.53-12](#) の「[トランスレーション パターンの削除](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで [コールルーティング] > [コントロールのクラス] > [コーリングサーチスペース] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するコーリング サーチ スペースを見つけます。[P.46-2](#) の「[コーリング サーチ スペースの検索](#)」を参照してください。
- ステップ 3** 削除するコーリング サーチ スペースのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックします。
- この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** コーリング サーチ スペースを削除するには、[OK] をクリックします。削除を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。



注意

コーリング サーチ スペースを削除するときは、削除するコーリング サーチ スペースが正しいか慎重に確認してください。削除したコーリング サーチ スペースを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したコーリング サーチ スペースを作成し直す必要があります。



ヒント

コーリング サーチ スペースの削除は、削除するコーリング サーチ スペースを見つけて表示し、[削除] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

[P.46-7](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [コーリング サーチ スペースの検索 \(P.46-2\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの設定 \(P.46-3\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの設定値 \(P.46-4\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの削除 \(P.46-6\)](#)

■ 関連項目